

会報

第536号

発行日 平成31年2月25日

担当 三島市立北小学校
LD等通級指導教室

〒411-0033

三島市文教町1-4-8

TEL 055-986-0512

FAX 055-989-3945



静岡県三島市は、人口約11万人。小学校14校、中学校7校で、各学年約1000人ずつが在籍しています。市内には、ことばの教室が1校2学級、LD等通級指導教室は小学校に2校3学級、中学校に1校1学級があります。

市内に、富士山の湧水を水源とする清流が流れ、歴史と文化の香りがする町です。

北小学校は、昭和24年創立で、やがて70周年を迎えます。

三島駅の北側、景観の一つとしてあげられる銀杏並木の両側に展開する幼稚園1園、小学校1校・中学校2校・高等学校3校・大学2校が集まる「文教」の町の一角を占めます。

平成21年には校舎の新築があり、平成30年度は、通常学級23学級、特別支援学級6学級(知的3学級、自情3学級)、通級指導教室2学級という市内随一の規模となりました。

【ホームページ <http://www.city-mishima.ed.jp/kita-e/>】

北小学校のLD等通級指導教室は、平成22年度に1学級でスタートしました。平成24年度には、2学級になり、本年度は在籍33人を数えるに至りました。

[在籍児童の内訳①]

	自校	他校①	他校②	他校③	他校④	他校⑤	他校⑥	他校⑦	他校⑧	合計
人数	8	9	6	4	2	1	1	1	1	33

[在籍児童の内訳②]

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計
男子	2	6	4	3	7	9	31
女子	0	0	1	1	0	0	2

[在籍児童の内訳③]

自閉症スペクトラム24人、LD1人、ADHD8人

今後、他校に通級指導教室が設置される日もあるかも知れません。しかし、市内の中心校として、引き続きニーズに応え、「安全・安心」を味わえる学級として機能していきたいと考えます。



*** 教室紹介 ***

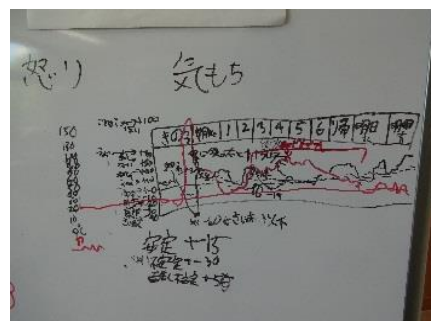
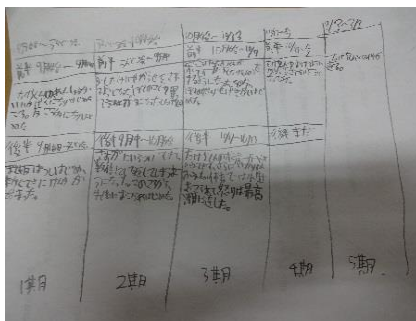
北小通級指導教室では、スローガン「わかった できた やった〜！」の下、「がんばる子の応援団」として、子ども達一人一人に応じたオーダーメイドの授業を行うようにしています。

学習内容は、本人・保護者・所属学校と相談し、心理の安定を第一に、生活スキル・ソーシャルスキル・特性やつまずきに応じた各教科の学習、認知の偏りや感覚統合に関するトレーニングなどを行っています。

今回はその中から、“本人の困り感からスタートする授業”と“特性やつまずきに応じた各教科の指導”の一部を紹介します。

1、 本人の困り感からスタートする授業

授業は基本的に「お話タイム」からスタートします。一週間の様子を知ると共に、自分を見つめ言語化することで自己理解を促すことにも配慮しています。時には悩みに寄り添い、解決法を一緒に考えることもあります。そんな時には、まずは子どもの話を受容、共感して聞くことを大切にしています。内容によっては、保護者に話し合いに加わってもらったり、所属校と連絡を取り合ったりして解決に向かうようにしています。



「お話タイム」での話を、コミック会話やマインドマップなどで整理しながら、ソーシャルの学習につなげることもあります。

「お話タイム」がトラブルの振り返りに発展することもあります。周囲や自分の言動・行動・感情を本人なりの方法で整理し、客観的に捉えた上で解決法を考えていきます。

2、 特性やつまずきに応じた各教科等の指導

通級教室に通う子ども達の多くが、学習活動において困り感を抱いています。初めて経験することへの緊張感や自信のなさ、不器用さや認知特性などが大きく影響していると思われます。そのため、活動に参加しようとしなかったり不適応行動に発展したりすることがあります。

そこで通級教室では、その子に合った方法で学習することによって、できることを増やし所属学級での授業にスムーズに参加できるようにしています。

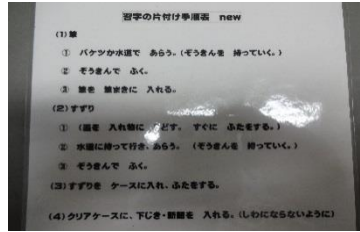
教科等の増える3年生と5年生に関しては、特に丁寧なサポートをするよう心掛けています。

音楽（リコーダー）



必要に応じてボンドで補助します。ボンドの量や付ける位置は子どもに合わせて微調節します。安定して持てるよう、指かけを利用することもあります。

書写（習字の準備・片付け）



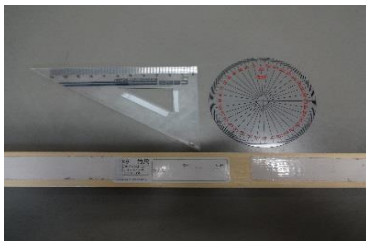
習字は片付けが負担になっていることがあり、トラブルや問題行動にもつながります。必要に応じて各学級に合わせた手順表を作成し、時間内で片付けられるよう練習します。

図工・家庭（彫刻刀・小刀・包丁）



刃物に恐怖心を抱く子どもが多いため、怪我をしないコツを教えます。木版画には滑り止めシートが必需品です。小刀や包丁は自然教室でも使うので、事前に体験して慣れておくようにします。

算数（用具の扱い等）



計算や文章題は得意な認知特性を生かし、スモールステップでできることを増やします。定規等には、滑りにくく適度に動かしやすいよう滑り止めを付けます。コンパス・分度器も使いやすい物を紹介したり練習したりします。

体育（縄跳び・跳び箱・ボール）



個々に適した用具を工夫します。長縄は三角や扇形に回すことで8の字跳びができるようになります。跳び箱も身近な物や大人の背を使うことで体重移動のコツが掴めるようになります。ボールもいろいろな物を用意し、認知の強みを生かす遊びの要素を入れて練習します。

家庭科（手縫い・ミシン）



手縫いもミシンも、まずはすぐに縫える状態にし、子どもが「できた」と思えるようにします。スタートがうまくいけば、後は少しずつ負荷をかけ、玉どめ・玉結び・上糸下糸の準備など、できることを増やします。アイロンも関連づけて扱います。

自然教室・修学旅行



必要に応じて本人参加型のサポート会議を開き、安心して当日が迎えられるようにします。日程・荷物整理・寝具の扱い・お金の使い方なども学び、見通しがもてるようにします。

これらの取り組みを通して感じていることは、小さな「できた」の積み重ねが自己肯定感を育て、ありのままの自分を受け入れるきっかけになっているということです。安心して所属学級の授業に参加できることは、不適応行動の軽減にもつながっているようです。

これからも一人一人の気持ちに寄り添い、小さな「わかった できた やった〜!」を積み重ねながら、子ども達の成長を支える教室を作っていきたいと思えます。